

うきたむ

第46号

2015.11.25

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585
FAX 0238 - 52 - 4665



▲開催中の「重要文化財 水木田遺跡展」

「重要文化財 水木田遺跡展」に寄せて

(公財) 山形県埋蔵文化財センター

調査員 阿部明彦

水木田遺跡は最上町月楯にある縄文中期の県内では最大級の集落跡である。調査は昭和53年で私は齢23の若輩、出土する夥しい縄文土器にただただ驚愕するばかりであったことを思い出す。あれから既に40年近い歳月が流れているが、今回の企画展「重要文化財 水木田遺跡展」は何とも感慨深いという想いを禁じ得ない。

偶然にも私の卒業論文のテーマが縄文中期前・中葉期における土器編年であったことから、これらの土器に触れ、色や形、細部の文様や特徴にまで目を配ることのできた一連の作業は得難い体験となり、自ずと手がけた土器の一つ一つが脳裏に焼き付いて、私の縄文土器観を形づくる礎になったと実感している。

大木7b式を中心とするこれらの土器群はどのようにこの地にもたらされたのか。同時代に並存した他地域の土器群とは如何なる関係にあったのか等々、解明されるべき課題は未だ多く残されている。

縄文土器に投影された縄文社会の在り方、地域間の交流による情報の共有や取捨選択が如何に為されたか。何気ない一つの縄文土器の表情にもこうした当時の社会背景や人々の観念が映し出されていると思つて向き合つてみると、芸術性を愛でる縄文土器の造形美とは一味違うもう一つの縄文土器に出会うことができるであろう。また、その謎の解明こそが考古学の醍醐味だと考えている。

水木田遺跡の土器群はその造形のすばらしさもさることながら、学術的な意味でも本県域を代表する貴重な縄文中期の土器群と評価されて指定されたことを文末に銘記して寄せる言葉としたい。

第二十三回企画展

「重要文化財 水木田遺跡展」

ご好評につき、会期延長決定！

山形県最上郡最上町に

所在する水木田遺跡は、昭和53年の発掘調査で、縄文時代中期の竪穴住居跡や土坑、集石遺構などとともに整理箱で約千箱の遺物が出土しました。

この内、縄文時代中期の残存状況の良い土器88点、土製品48点、石器・石製品194点の合計330点が、平成23年6月27日に重要文化財に指定されま



▲「重要文化財水木田遺跡展」展示土器（一部）

した。

今回の企画展では縄文土器47点、土偶などの土製品35点、石器・石製品80点の合計162点を展示しています。

土器は胴長の深鉢形で頸部から口縁部にかけて大きく広がる口縁部に、4単位の扇形突起が付けられた大形で優美な一群が目を引きまします。また、関東地方や、東北地方北部の土器と類似するものもあり、隣接する地域からの影響を受けていたことを物語っています。

土製品には山形県西ノ前遺跡出土品と類似する「出尻土偶」が多数含まれ、石器・石製品は、石鏃・石匙などの剥片石器、磨石・凹石などの礫

石器が主体で、狩猟や堅果類の加工など、当時の生業を知るうえで重要なものとされています。

企画展に関連して考古学セミナーを開講しました。山形県内の縄文時代中期前葉から中葉の遺跡と出土品の概要、ほぼ同時期の遺跡の調査成果の詳細、当該期の生産用具としての石器について講義をしていただきます。また、企画展記念講演会では水木田遺跡、そして縄文中期社会とはどのようなものであったかについてお話をいただきました。

来館者も多く、好評であるため、今回の企画展はくん蒸で休館となる12月13日から18日までを除き、12月27日（日）まで延長することといたしました。まだ、ご覧になっていない方、是非足をお運びください。

第X期 うきたむ学講座

うきたむ学講座実行委員会との共催で毎年開催している「うきたむ学講座」。10回目を迎える今期の特集は『大谷地とその周辺の自然と歴史を考える』です。大谷地の「むかし」「いま」そして「これから」を一緒に考えてみませんか。

【第1回】「縄文時代前期遺跡の集落構造と生業・交流」

平成27年11月28日（土）13時～17時20分

29日（日）9時～15時

【第2回】「大谷地の成因と周辺の遺跡」

平成28年1月17日（日）13時～16時

【第3回】「大谷地周辺の生活と生物」

平成28年2月28日（日）13時～16時

会場…考古資料館（第1回見学会・第2回・第3回）
南陽市えくぼプラザ（第1回シンポジウム）
（詳細はお問い合わせください）

催し物のご案内

今後の催し物です。ご来館をお待ちしております。
（詳細はお問い合わせください。）

◇ガラス玉をつくろう 12月12日（土）

◇古代風プレスレットをつくろう

12月19日（土）

◇第23回企画展（期間延長） 10月1日（水）～12月27日（日）

◇考古資料検討会 2月7日（日）

考古学セミナー

平成27年10月11日／10月25日／11月8日(日)

今期は「縄文時代中期

前葉から中葉の遺跡と遺物」と題し、3回にわたりに開講しました。当館館長による概要の講義に続き、企画展のテーマである最上町・水木田遺跡とほぼ同時期の遺跡を県内4地域から1つずつ取り上げ、あわせて同時期の石器についてもご講義いただきました。

同時期の遺跡を比較することで、企画展への理解をより深めていただく機会となりました。ありがとうございました。以下に内容をご紹介します。

台ノ上遺跡 置賜地域

菊地 政信氏

(日本考古学協会員)



縄文時代中期前葉から中葉の拠点的な

集落で、131棟の竪穴住居跡が検出されました。大型住居跡は、祭祀を行う場として使われた可能性があります。

200点を超える土偶や、祭祀に関連する石製品などの遺物も多数出土しています。縄文土器は大木7a、8b式が中心ですが、関東や北陸の影響を受けた土器も認められます。

西海湖遺跡 村山地域

菅原 哲文氏

(山形県埋蔵文化財センター)



縄文時代中期中葉に出現し発展したと

される遺跡で、広場を中心に墓域・土坑群・住居群・掘立柱建物群が環状に配置され、大規模な縄文ムラの構成が明らかに。なった重要な事例です。環状集落が、中期後葉に

かけて衰退し消失していく過程をたどることができ、数少ない遺跡でもあります。

西ノ前遺跡 最上地域

黒坂 雅人氏

(山形県埋蔵文化財センター)



縄文時代中期前葉から中葉の拠点的な

大規模集落跡です。出土した土偶48点が国宝に指定され、完形に復元された土偶は高さ45cmと国内最大です。豊かな精神性を支える背景に、豊富な食料資源の活用による生活基盤の安定と高度な土器づくりの技術の存在が見て取れます。

西向遺跡 庄内地域

須賀井 新入氏

(山形県埋蔵文化財センター)



4時期の変遷が想定される竪穴住居跡

群が検出されました。土器は縄文時代中期前葉

のもので、大木式は24%にすぎず、北陸地方の新保・新崎式に比定されるものが約73%を占めます。また、北東北地方の円筒上層式土器も伴出し、中期初頭の東北南部は主体性や独自性が十分に確立されていなかったようです。

山形県の縄文時代中期前葉から中葉の石器

秦 昭繁氏

(考古学研究者)



石篋の片刃、主体から両刃への変化、三脚石器の出土、石皿の充実などが特徴です。縄文時代中期を支えたと考えられる打製石斧は、山形県ではそれほど目立った

器種でないことから、それを利用した活動が低調だったか、木・骨などの代替え品があった可能性が考えられます。

絶賛頒布中！

「重要文化財

水木田遺跡展」



現在開催中の、第二十三回企画展「重要文化財 水木田遺跡展」の展示図録です。

「水木田遺跡」をより深く知って頂くため、水木田遺跡の概要、県内の同時期の遺跡の紹介等に加え、重要文化財に指定された330点すべての写真を収録したDVDを添付しました。

詳細は、当館までお問い合わせください。

目次

- 序章 水木田遺跡とは
- 第一章 土器
- 第二章 土偶・土製品
- 第三章 石器・石製品

重要文化財「山形県水木田遺跡出土品」保存修理事業

資福寺跡

高畠町糠野目 ● 中近世

今回ご紹介する資福寺跡は高畠町西部に位置する糠野目地区夏刈にあります。資福寺は弘安年間(一二七八〜八八)に屋代荘地頭長井氏三代時秀が、鎌倉建長寺の高弟紹規長老を招いて建立されたと伝えられています。長井氏は鎌倉幕府滅亡後も、足利家から厚く信任された事で長く置賜の地を支配し、その長井氏の帰依寺として資福寺は庇護されました。また、学問の

中心として、関東十刹の一つに挙げられることもあり、鉄庵道生や無涯仁浩らの名僧を輩出し、境内も約二〇〇メートル四方の規模を誇る東北有数の寺院でした。長井氏は康暦二年(一二三〇)に始まる伊達氏の置賜侵攻により、至徳二年(一二三五)、八代道広の代で滅亡しました。新たな領主となった伊達氏は、長井氏同様、資福寺を帰依寺、学問寺として手厚く保護しました。元龜三年(一五七二)、伊達氏十六代輝宗は、甲斐国の名僧・虎哉宗乙を資福寺に招き、嫡男梵天丸(貞山政宗)の学問の師としました。政宗は、後重臣となる片倉小十郎や伊達成実らとともに幼少期を高畠の地で過ごしました。天正十九年(一五九一)、豊臣秀吉による奥州仕置きによって伊達政宗は会津郡他二郡を没



▲ 伊達輝宗の墓

収され、さらに翌年の再任置きで葛西大崎一揆の責任を問われ岩出山城(宮城県大崎市)に移封となりました。政宗が仙台に本拠を移すと資福寺も仙台城の城下の北山に移り、寛永十五年(一六三八)に現在地の仙台市青葉区に移りました。資福寺にあったとされる永仁四年(一二九六) 铸造の資福寺永仁の鐘は、政宗が岩出山移封の際に亀岡文殊に寄進されましたが、太平洋戦争後改鋳され幻の鐘となってしまうました。現在、資福寺跡には伊達輝宗と殉死した重臣遠藤基信の墓や濠、土塁、蓮池、観音堂などの跡地や板碑、六面幢などが今も残っており、当時の面影を感じさせる史跡になっています。

我が館の展小品 (34)

尖頭器

縄文時代草創期

● 高畠町 日向洞窟

縄文時代草創期の遺跡である日向洞窟遺跡西地区では、珪質頁岩製の打製石器が数多く出土しました。槍先形尖頭器もその一部であり、当館の常設展示室に展示しています。

尖頭器は主として槍の穂先に付けられて刺突具として使われたほか、ナイフのような切截具としても使われたと考えられています。

日向洞窟遺跡西地区は、最上川の西にある石材産



地からは離れています。盛んに石器製作が行われていました。遺跡からは、四二八点もの槍先形尖頭器とその未製品が出土し、その製作段階で生じる大量の剥片も出土しました。

くん蒸作業に伴う臨時休館のお知らせ

12月13日(日)から12月18日(金)にかけて、保管・展示資料を虫害・カビ等から守るための「くん蒸」作業を行います。

それに伴い、この期間は休館とさせていただきます。ご了承ください。